

第10回自治会館建設委員会議事録

日時 2018年12月7日(金)17時30分から19時50分

1 第9回委員会以降の経過について

11/19 市議員(南地区在住10人)に資料郵送 11/25 住民説明会開催

2 各チーム検討(案)報告と検討

- (1) 会館設計構想チーム 特になし (2) システム検討チーム 特になし
(3) 広報チーム(友井リーダー説明)

○住民説明会の意見を考慮したアンケートのたたき台を説明。

- ・建設費、建築面積、部屋の広さ、ふれあい基金、運営収支、近隣会館の収支など資料を添付。
- ・建設の賛否 ・ふれあい基金利用の賛否 ・2019年6月に市へ事業計画申請書を提出の賛否
- ・自治会のかかわり方 ・つくし野センター利用団体へのアンケート

○鈴木氏からアンケート(案)が提出され説明された。

- ・「地域密着型集会施設」であることを説明したうえで、自治会館の必要性の賛否を問う
- ・財政の健全化を説明したうえで、自治会館の維持運営の賛否を問う
- ・ふれあい基金の使用目的を説明したうえで、ふれあい基金の使用の賛否を問う

*上記、両案を合体し、次回までに広報チームがアンケート案を作成する。

つくし野センター利用団体アンケートは独立して実施する。ほかの団体も探してアンケートをする。
アンケートは12月でなく1月に実施する。事業計画申請書提出の時期についても聞く。

3 説明会の評価と概要記録、報告書について

○概要記録と報告書について

- ・概要記録と報告書は、ふれあいネットに載せるべきである。報告書はアンケートに添付してもよい。
- ・明確に事実と違う発言は取舍選択すべきである。・概要記録に説明会での提出資料名を書く。

○説明会での発言・質疑応答について

- ・当日提出されたセンターの空き状況の資料は、今後29日間の空き状況であり、実績とはちがう(例資料では第2会議室の午後86.2%空いている。実績は17%空いている)。また、1週間ごとの空き状況とも違う。整理してふれあいネットに載せる。
- ・自治会は会館を支えるべきとの発言があったが、委員会は自治会に負担をかけないという考え方だ。(委員会の中で、収支は黒字になるという見方と、赤字になるのではないかという見方がある。少しでも自治会に負担してもらい、意識の問題として自治会も関係しているというようにできないか)
- ・つくし野センター利用率の減少という発言があったが、2016年度から2017年度は上がっている。
- ・センターのホールと音楽室利用者は、会館を使わないという発言は当たっている。他の部屋の利用者だけでは会館利用者が少なくなる⇒新しい利用者の発掘が必要。つくし野に限定する必要はない。
- ・センターがあるから建設不要との発言に対しては、センターとは違う地域密着型集会施設であるということをもっと表に出すべきだ。
- ・どんなことに使うのか夢のある話を夢ではなく具体的に提示する必要がある。
- ・センター第2会議室(64㎡)より会館の一番大きい部屋面積(49㎡)が小さいので需要があるのか。

○ふれあい基金について

自治会の総会にかけるためには、ふれあい基金の提議が必要なので、自治会への説明と同時にふれあい基金への説明も同時並行で進める必要がある。

鶴養委員長 あまり急いでも失敗する。足元を固めてやるべきことをやっていく。

次回委員会 12月14日(金)17時30分から つくし野コミュニティセンター